

総合研究所

RESEARCH & INNOVATION CENTER

MOVE THE WORLD FORWARD  MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

CAREER

SNAPSHOT BOOK

多様に輝く。 世界に届ける。



500もの製品、多岐にわたる研究開発と事業領域、
それら全てに横断的に関わるのが、総合研究所。
エネルギー、インフラ、モビリティ、宇宙・防衛。
三菱重工が柱とする事業領域で、
学んできた専門を活かして活躍するチャンスがあります。
最先端の技術を現場に届けることで、広く社会とつながる。
それが、三菱重工の総合研究所です。







三菱重工の製品すべてのフィールドを、技術を携え横断する。

実機レベルの実証ができる。間近で学び、研究する。



大型構造物強度試験設備



耐航性能水槽



装備系統機能試験場



汎用風洞

総合研究所は、ものづくりの現場と常に並走する。



▲ 部門紹介詳細はこちら

研究推進部と要素研究部が一体となり、事業のニーズと基盤技術を結びつけています。

研究推進部

事業部の窓口として、ニーズを受け取り、各研究部門へ橋渡しする役割を担う。

要素研究部

共通基盤技術を深め、製品開発を技術で支える。
三菱重工のあらゆる製品の素地といえる存在。

ファクトリーイノベーションセンター

エネルギー研究推進部

エコシステム研究推進部

原子力研究推進部

知能化機械研究推進部

特殊システム研究推進部

化学研究部

強度・構造研究部

振動研究部

機械研究部

流体研究部

燃焼研究部

伝熱研究部

パワーエレクトロニクス研究部

電子・物理研究部

制御システム研究部

オープンイノベーション推進室

業務部

総合研究所には、挑戦を後押しする土壌がある。

多様な専門家との共創

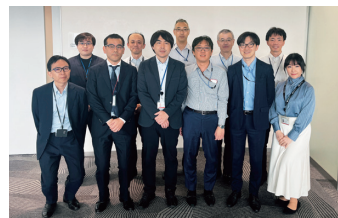
製品課題の解決に向け、社内外のエンジニアと日常的に議論・協働します。多様な視点を融合させ、技術に広がりと深みを生み出します。専攻以外にも裾野を広げ、技術者としての成長につながります。



研究成果の発信を推進

学会発表・論文執筆・寄稿などを通じ、研究成果の社会発信を積極的に推奨しています。実用と学術の両面から価値ある技術を育む文化があります。特許出願も積極的に行い、知財を活用した事業企画にも力を入れています。

知的財産をグローバルに
展開・活用している
ライセンスビジネス TU ▶



社会人学位取得（博士号）を後押し

企業研究者としてのキャリアを積みながらの学位取得も推進しています。多くの社員が働きながら博士号を取得しています。業務と両立することは大変ですが、経験者に相談できる環境があり、広い視座で専門を多角的に深められます。

詳しくはこちら▶
P.10 浦田さんインタビュー



未来を切り拓く挑戦「ピボット開発」

「ピボット開発」は、前例のない課題に自由な発想で挑戦できる仕組みです。若手のうちから自分のやりたいことを提案し、自分の裁量で研究を推進できる環境があり、失敗も糧に挑戦と成長を重ねることができます。



マーケットニーズの
変化・機会をとらえる

新たな技術課題を
細分化する

ベンチャーを凌ぐ
スピードで開発する

方向を
適宜修正する

海外でも活躍できる環境「共同研究」

研究開発の一環として、ロンドン・シリコンバレー・シンガポールなどへの海外派遣のチャンスがあります。現地拠点では最先端の技術や市場動向に触れながら、グローバルな視野を広げることができます。



若手の海外経験「MHI Global Training」

海外派遣には駐在・留学をはじめ期間や行先などは様々な形態があります。中でも MHI Global Training という挙手制の海外グループ会社派遣制度は若手社員を対象としています。早い時期からチャンスがあり、多くの若手社員がチャレンジをしています。

詳しくはこちら▶
P.13 蛭山さんインタビュー



16通りの『わたし』が、ここにいる。

事業を支える技術の根底には、技術者の一人ひとりの歩みがある。
それぞれの専門と向き合い続けてきた人たちのリアルな姿を通じて、
総合研究所にいる未来の『わたし』を想像してみてください。

1	流体研究部 藤田さん (2013年度入社・名古屋)	P.9
2	電子・物理研究部 浦田さん (2007年度入社・長崎)	P.10
3	機械研究部 伊原さん (2023年度入社・名古屋)	P.10
4	パワーエレクトロニクス研究部 ジワリヤウェートさん (2013年度入社・名古屋)	P.11
5	燃焼研究部 竹尾さん (2020年度入社・高砂)	P.11
6	振動研究部 林さん (2007年度入社・名古屋)	P.12
7	ファクトリーイノベーションセンター 橘さん (2009年度入社・名古屋)	P.13
8	燃焼研究部 蠟山さん (2021年度入社・相模原)	P.13
9	エネルギー研究推進部 木村さん (2009年度入社・高砂)	P.14
10	エコシステム研究推進部 仙波さん (1993年度入社・横浜)	P.14
11	化学研究部 嬉野さん (2008年度入社・長崎)	P.15
12	ファクトリーイノベーションセンター 川節さん (1984年度入社・長崎)	P.16
13	強度・構造研究部 高越さん (2016年度入社・高砂)	P.17
14	オープンイノベーション推進室 丸山さん (2004年度入社・丸の内)	P.17
15	伝熱研究部 四方さん (2013年入社・長崎)	P.18
16	制御システム研究部 武田さん (2008年度入社・神戸)	P.18



世界トップレベルの技術に到達。チームワークの楽しさを知る

流体研究部 藤田さん (2013年度入社・名古屋)

学生時代の専攻 基幹理工学研究科機械科学専攻 / 軸流圧縮機における非定常現象の研究

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

主な業務は航空・宇宙製品の風洞試験の計画・実施。津波解析技術の開発、乗用車用ターボチャージャの開発、ジェットエンジンの開発などに携わってきました。陸・海・空と、地球が舞台です！笑

ご専門の面白さや魅力は？

流体工学の道を選んだのは、製品開発の最上流で、形状や性能を決定づける検討ができるから。強度・構造・振動・熱・制御といった機械設計は、空力検討なしには始まらないものも。モノの方向性を決める面白さは、他の分野にはない大きな魅力です。

特に印象的だったお仕事のエピソードを教えてください

ターボチャージャの遠心コンプレッサ設計を担当した際、ベテラン・若手を交えてホワイトボードを前に翼の角度で大激論し、1mmの形状変更が性能を左右する世界で、粘り強く設計を進めました。試作機の性能試験に立ち会い、過去最高の数値が出た瞬間には、世界トップレベルの技術に到達できたことを肌で感じました。この経験は、チームで最高の成果を追求する楽しさを教えてくれるとともに、その後の研究開発に取り組む上での大きな自信となっています。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください

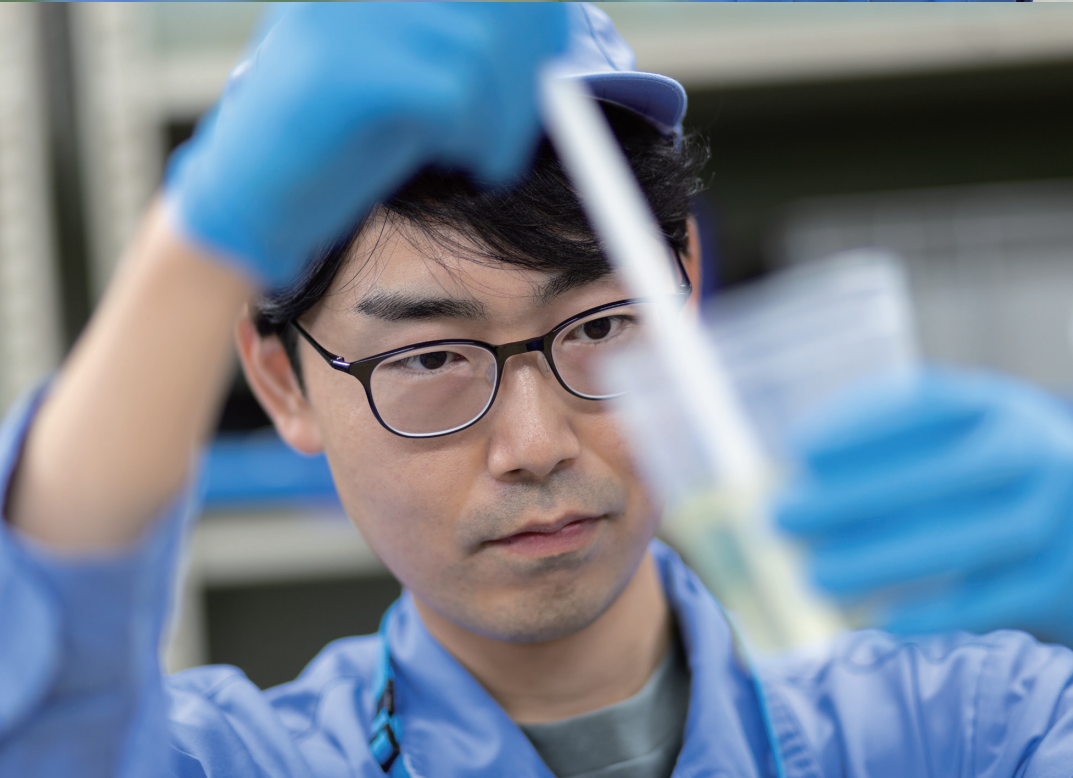
迷った時は、いつも「世界と戦う機会があるか」という問いを自分に投げかけています。「世界最高」や「世界初」といった言葉が日常的に飛び交う開発現場は、私にとって最高の「挑戦と創造の場」だと思っています！

あなたにとって、総合研究所はどんな組織ですか？

ベンチャー企業の運営に似てますね。予算や工程の管理から、人員配置、業務分担、進捗報告まで、研究開発のすべてをマネジメントします。会社経営のように自分たちの手で研究を動かしていく面白さがあります。「全部自分で予算から工程までやる研究」が面白いと感じられれば、研究所に向いていると思っています！

総合研究所に興味を持っている学生さんへメッセージをお願いします！

研究でも遊びでも、なんでも全力でやっておきましょう！



社会人になってから、業務と並行し博士号を取得

電子・物理研究部 浦田さん (2007年度入社・長崎)

学生時代の専攻 機械工学科 / 工作機械における歯車の歯面仕上げに関する研究

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください

自分自身が成長するかどうかを大切にしています。異動経験がありますが、これまでと異なる環境に身を置くことで成長し、見識がより広がったと思います。ライフステージが少しずつ変わると大切なことも変わってきますが、キャリア選択で迷った時も自分自身の成長に繋がることを一つの軸として判断しています。

社会人になってから博士号を取得しようと思ったきっかけは？

「会社の枠を超えて何かに挑戦したい」と思ったのがきっかけでした。仕事と両輪になるので想像以上に大変でしたが、身に付いた知識やスキルは現在の業務でも大きく役に立っています。専門分野に関しては、取得前と比較して自身の見解や考察に対し、より自信がついたと思います。当時の上司や先輩は博士号取得に対してとても前向きに考えて頂いていたので、大学入学や取得段階における手続き等は大変スムーズに進みましたし、悩みなども聞いて頂きました。

博士課程から企業研究者に。複数研究を並行して推進

機械研究部 伊原さん (2023年度入社・名古屋)

学生時代の専攻 工学研究科 機械機能創成専攻 /
レーザー表面処理を用いた自動車エンジン向けすべり軸受の摩擦低減

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

当社製品の信頼性向上を目的に摩擦摩耗の制御に取り組んでいます。トライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑）は複数事象が関連する技術分野。製品ごとに影響因子や摩擦摩耗の制御方法が異なる上、当社製品は極限環境で動作するものが多いため、摩擦摩耗の現象理解が不可欠です。そこで、各製品に対応した検証研究を並行して実施し、現象理解に即した制御技術を開発しています。世界でも類似例が少ない特殊なトライボロジー事例に取り組める点が難しさであり、魅力です！

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

私は博士課程まで進学していたため、大学研究者 / 企業研究者のどちらを選択するか迷っていました。最終的には「製品に直結した研究開発ができるか?」、「世界と連携し、競争しながら仕事ができるか?」、「幅広い研究テーマを扱えるか?」を自問自答し、三菱重工の企業研究職を選択しました。



海外拠点との共同研究や母国でのレクチャーで架け橋に

パワーエレクトロニクス研究部 ジワリヤウェートさん (2013年度入社・名古屋)

学生時代の専攻 電気系工学専攻 / 電気自動車向けの非接触給電の高効率化手法検討

特に印象的だったお仕事のエピソードを教えてください

5年目の乗用車用のターボチャージャの仕事です。ターボチャージャ関連研究や製造を担当していた MHI グループの海外拠点と関わったことがきっかけで、出身国のタイにあるターボチャージャ工場 (MTA) の技術向上のための活動で母国語でターボチャージャに関するレクチャーをさせていただきました。少し自分の国に貢献できて、とても嬉しく感じました。

総合研究所に興味を持っている学生さんへメッセージをお願いします！

日常に挑戦と新しいひらめきのチャンスがあり、成長できます！リミットをかけずに挑戦して、やりたいことを見つけてください。たくさん試行錯誤し、挑戦の結果が自分のやりたいことと違うなと思ったとしても、「違った」と知ること自体に意味があります。

学生時代の専攻とは異なる分野でも大きく活躍

燃焼研究部 竹尾さん (2020年度入社・高砂)

学生時代の専攻 理学研究科宇宙物理学専攻 / 宇宙初期におけるブラックホールの急成長のシミュレーション

学生時代の専攻と違う専門に携わるようになった過程について教えてください

インターンで燃焼振動予測技術に関わったことがきっかけです。当時の専攻とは何の関係ありませんが、ロジックを組み立てながらツールを作り、結果の物理的意味を吟味し、というプロセスを繰り返すうちにこの分野の魅力に気づき、仕事にしようと思うようになりました。合同説明会で偶然当社ブースに立ち寄り、私の研究についてあれこれ話したところ、使っている技術で共通点があると分かり、そこからインターンシップに参加しようと思いました。

総合研究所に興味を持っている学生さんへメッセージをお願いします！

企業の研究所は、制約も多いですが、規模の大きさ・速さは他では代えがたいものです。また、製品に関わる研究開発の中でも、基本的な理論や、意外な分野とのつながりが見えてきて、いったんはまると非常に楽しい。専攻が一致しなくて迷っておられる方は、文字媒体の情報ではなく、直接話を聞きに行くと良いかと思います。ご自身の研究について話したり、企業の取り組みなどについて深掘りしたり、何度かラリーをするうちに、次第に接点が見えてきます。





JAXA に三年間出向、社外との協働経験を活かす

振動研究部 林さん (2007年度入社・名古屋)

学生時代の専攻 機械システム工学専攻 /
多質点を持つダイナミックダンパの設計手法に関する研究

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

入社2年目から13年間、民間航空機の騒音設計を担当。JAXA 航空技術部門へ3年間出向後、昨年総合研究所に復職。現在は航空宇宙製品の振動・音響の技術開発・要素研究・検証試験に従事し、社内の多様な製品への貢献にやりがいを感じています。忙しい毎日でもマネジメントを担いつつ、朝は自分のペースで研究とデータ取得を進めています。

社外への出向によって得られたものは、現在の研究にどのように活かしていますか？

これまで設計→研究(社外)→研究(総合研究所)と渡り歩き、技術を使う側→作る側→作る側と経験。同じ技術軸を複数の立場で見たからこそ「誰のため？」を意識した開発が重要だと感じます。旅客機の騒音設計や共同研究を通じ、社外研究者、同業他社、行政、空港、エアライン、自治体、監視実施者など多くと関わり、異なる技術ニーズを知るネットワークは視野を広げる機会となりました。

あなたにとって、総合研究所はどんな組織ですか？

各組織や社員がそれぞれ得意な技術を持ち、互いに補完しながらMHIの幅広い製品開発を支えています。研究部門は一見“個人商店”のようで、実際はしっかりと組織で動いています。雑談していた他部署の同期が同じ製品を対象に研究や試験をしていた、ということも少なくありません。部署を越えた交流も重要で、個々を尊重し仲間意識が強く、個人の裁量の自由度も高い、雰囲気の良い職場です。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

頼まれたことは断らない。(どうしても時間が取れずに断ることもありますが)やるからには全力で。

自分の人生を豊かにする選択肢か？何であれ挑戦することで、自身のスキルや知見を増やす機会が得られると思っています。

総合研究所に興味を持っている学生さんへメッセージをお願いします！

MHIの多くの製品に関わる機会が得られます。実際に完成機を使った試験などは総合研究所ならではの醍醐味。自身で研究を立ち上げたり、時にはその成果を使って製品開発をリードしたり、活躍できる多くの機会があります。学生時代は、勉強以外に新しいことに“あなたなりのやり方で”チャレンジしてみてください。成功しても失敗してもその経験は必ず後々に生きてきます。



事業部門と総合研究所を横断し、研究～設計まで幅広く活躍

ファクトリーイノベーションセンター 橘さん (2009年度入社・名古屋)

学生時代の専攻 工学研究科マテリアル科学専攻 /
一方向性孔を有する高温耐熱材料 TiAl 合金の変形挙動に関する研究

事業部と総合研究所の垣根を越えて横断することになったきっかけを教えてください。

入社時は事業部の研究部門に配属され、製品開発やトラブルシュートを行っていました。3Dプリンタ技術の研究開発とH3ロケットへの適用実績を評価され、現在はいろいろな事業部から製品適用に向けた開発を依頼されるように。新しい技術の専門家ではない事業部の人たちと、製品の専門家ではない総合研究所の人たちの間に入ることで、開発がスムーズに進みます。

研究から開発まで一貫して行うことならでは大変さ、やりがいを教えてください。

テストピースの評価から始めて、現在はH3ロケットの一部となり打ち上げられています。特に、最初の打ち上げ時は心がバクバクでした。成功したときの喜びは今でも忘れられません。開発時はスケジュールに追われる中、製品が成立する技術的な着地点を毎日悩んで考え、製造が始まると頻発するトラブルの対応に追われ、短期間で製品影響の評価や図面要求を改訂したりと、大変さをあげたらきりがありませんが、苦しんだ時間の分だけ、成功時の数秒間は興奮と感動、喜びが爆発します。この数秒は苦しみぬいた当事者でないと味わえない、プライスレスな瞬間だと思います。

MHI Global Training を利用しフランスで共同研究

燃焼研究部 蛸山さん (2021年度入社・相模原)

学生時代の専攻 工学院機械宇宙工学専攻 / 被覆厚さの異なる電線上の下方燃え拡がり現象に関する研究

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

学生時代の専攻とは異なり、レシプロエンジンの燃焼に関する解析業務を行っています。最近は機械学習を活用して効率化を図る研究が盛んで、時代の流れに乗れているとやりがいを感じます。

MGT (MHI Global Training) という制度について、利用に至った経緯を教えてください。

学生時代にフランス留学を経験し語学を学んだことから、フランスでの業務に興味をもっていました。海外研修に関する社内情報を積極的に探していたところ本制度を知りました。

海外派遣の経験は現在のキャリアにどのような影響を与えていますか？

フランス人と関わることで能動的に動き、積極的にアピールするように。言語の壁がある中でもお互いに理解しあえると感じ、コミュニケーション力の重要性を再認識しました。





事業部からの依頼研究に取り組むガスタービンの専門家

エナジー研究推進部 木村さん (2009年度入社・高砂)

学生時代の専攻 理工学研究科機械工学専攻／推進用エンジンに関する数値解析及び実験

事業部からの依頼研究ならではのやりがいとは？

スケールの大きな研究開発ができる点です。総合研究所内の要素研究は比較的自由な発想でやりたいことにチャレンジできる一方、予算や人員にも限りがあります。事業部からの依頼研究として実際の製品開発に携わることで、製造部や設計部など数多くの方々と共に作り上げた製品を、大規模な試験設備で検証するといったスケールの大きな仕事にやりがいがあります。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

まずはやってみるということが大切です。元々はそのままで変化を望まないで、異動などには最初抵抗がありましたが、新しいことにチャレンジしてみることで、仕事の幅が広がり、成長につながりました。米国のガスタービン設計事務所へ1年間駐在した際は、戸惑うことも多かったのですが、公私ともに非常に良い経験ができたと思います。

唯一無二の研究に専念するプロフェッショナル

エコシステム研究推進部 仙波さん (1993年度入社・横浜)

学生時代の専攻 工学研究科地球環境工学専攻／バイオアッセイによる環境中発がん性物質の汚染調査

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

化学プラント、CO2回収装置、排ガス処理装置、廃棄物焼却炉などの製品開発を担当。入社から15年は焼却炉から出てくる焼却灰の処理方法を研究していました。一時期設計部門に異動後、研究所に戻ってきてからは、それ以外の環境関連技術全般の製品開発や技術開発を担当しています。何か新しいことが見つかる、見つかるかも、という瞬間や、部下がそういう経験をしているのを見て、やりがいを感じます。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

上手くいかないときは苦しいですが、仕事がやりたいことのすべてではないため、そういうときもあるなあ、ぐらいに思っていました。そのうち誰かが解決策を思い出すことがあるので、じゃあやってみよう、その繰り返し。続けるためには、たぶん何とかできると楽観的に思うことです。



育児と研究職のキャリアを両立しながら活躍

化学研究部 嬉野さん (2008年度入社・長崎)

学生時代の専攻 物質工学科専攻 / 光触媒担持ゼオライト-オゾン併用による有機排水処理技術の開発

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

化学分析の研究を通じて、当社が開発・提供する発電プラントやエネルギー関連設備の品質評価や現象説明、そして技術開発に取り組んでいます。目に見えないものを“見える化”する分析の仕事は、言わば製品の「健康診断」のような存在。製品の安全性や性能を左右する、ものづくりの根幹に関わる大切な役割です。入社以来17年以上にわたり、幅広い製品に関わりながら現場と研究の橋渡し役として意識しているのは、「物事の本質を見抜くこと」です。

ご専門の面白さや魅力は？

現象がなぜ起きているのか、その原因を分析という手段で突き止めることは簡単ではありません。現場の声をよく聞き、多角的な視点で仮説を立て、検証を重ねる。丁寧なアプローチが求められます。やりがいを感じるのは、私たちの分析結果や技術提案が現場の課題解決に繋がったときです。

子育てとキャリアを両立するために気にかけていることを教えてください。

娘が1歳の時に復職し、現在は5歳です。復帰当初は、家事も育児も仕事も100%で頑張ろうとして、うまくいきませんでした。産前と同様に、仕事でも全力で周囲に貢献したい気持ちは強くありましたが、現実には子どもの急な体調不良で早退や欠勤も多く、思うように成果を出せない自分に悔しさや不甲斐なさを感じることも。そんな経験を経て、今は「本当に大事なことを見極める力」が身についたと感じています。また、職場のサポートにも本当に助けられ、急な休みにも理解を示してくれる上司や、チームでのフォロー体制があるおかげで、育児と両立しながらも研究職としてのキャリアを続けられています。制度があるだけでなく、支え合う文化がありがたいです。現在も試行錯誤の日々ですが、昔よりも少し肩の力を抜いて仕事ができるようになったかな、と感じています。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

“今できること”ではなく“やりたいこと”や“なりたい自分”をイメージすること。

総合研究所に興味を持っている学生さんへメッセージをお願いします！

“今の自分にできること”ではなく“やりたいこと”や“なりたい自分”をイメージして選択してほしいです。入社後に得る知識や経験の方が今よりも圧倒的に多いので「今の自分」にこだわる必要はありません。好奇心が一番の成長剤です。



様々な立場で活躍。技術者としてのやりがいと誇り

ファクトリーイノベーションセンター 川節さん（1984年度入社・長崎）

学生時代の専攻 機械工学科 / 熱線流速計を用いた噴流の可視化

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

入社して42年。現在はファクトリーイノベーションセンター（FIC）のマネージングエキスパート（ME）の立場で、材料技術、製造技術に関わる目利き役として中堅・若手の指導にあっています。

ご専門にどのような点で面白さや魅力を感じたのか教えてください。

三菱重工は総合機械メーカー。エネルギー、産業機械、輸送用機械、環境装置、防衛・宇宙機器等の分野で500を超える多種多様な製品を製造し、事業を通して社会インフラを支え、世界の人の生活を支えています。長い会社生活の中で数多くの製品に関わってきましたが、その根幹を支える材料・製造技術者として多くの開発プロジェクトに参画できたことを誇りに思います。また仕事をする中で、お客様から「技術の三菱」という言葉を度々聞くことも。“技術者”としての大きな満足感とやりがいを感じますし、家族にも胸を張って自慢できます。

この会社の様々な組織を俯瞰して見た上で、得られた考えを教えてください。

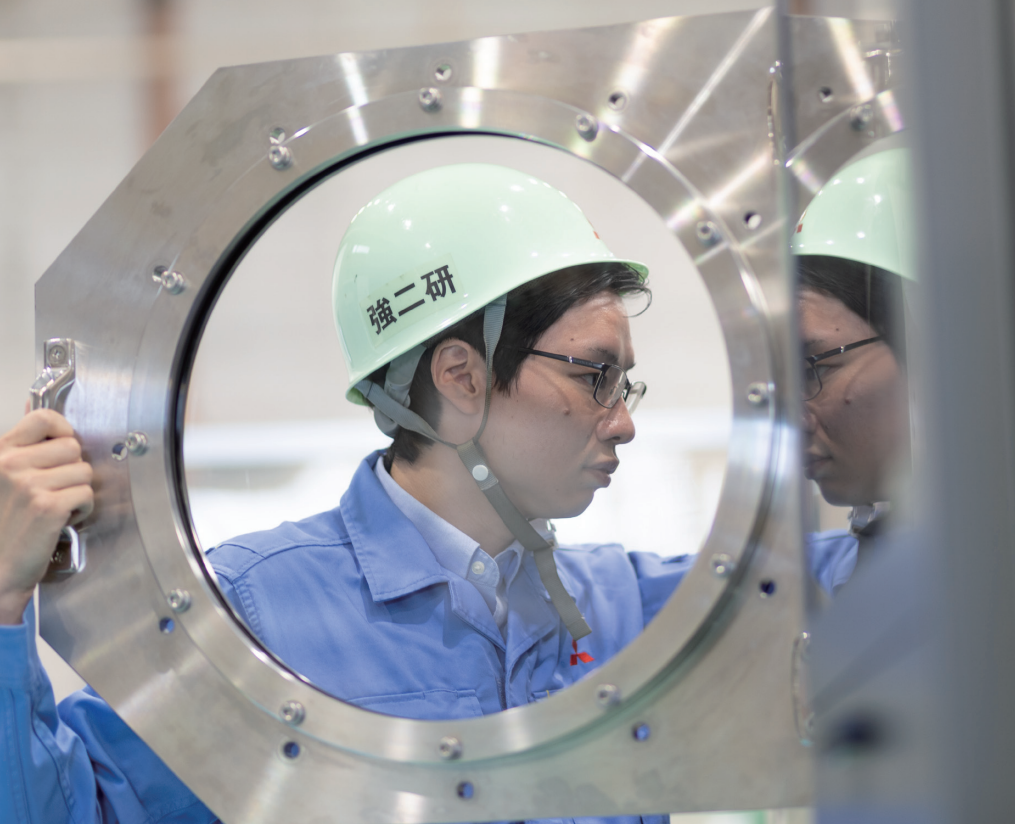
三菱重工に対する社会からの信頼と期待は、たいへん大きいことを身をもって感じました。その分責任も重いですが、やろうと思えば何でもやれる会社、多くの仲間が支えてくれる会社、社員を大切にする会社だと思います。これまでに幾度か別の道を歩むことを考えましたが、今振り返るとこの会社に勤めていて良かったと心から思います。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

勉強・学びが最も大切です。世界の最新・先端の技術情報をアンテナを高く保ちウォッチすると共に、先人や先輩社員の教え（教科書から得られない学びと気付き）を上手く活用して成長してください。努力は裏切りません。努力をした分だけ成長し仕事楽しくなり満足感が得られるはず。上手いかないこともあります。絶対にあきらめないこと、失敗を恐れないこと。

総合研究所に興味を持っている学生さんへメッセージをお願いします！

沢山の経験を積み、苦労した分だけ成長できます。総合研究所で多くの製品、技術に関わり、多くの仲間と仕事をしてみませんか？自分が関わった製品が世の中に出ると大きな満足感、達成感が得られるものです。「仕事」とは“会社や上司の指示に従い仕えてする業務”ですが、これを“志をもって、やりがいをもって、夢をもって、目標をもって、自らを奮い立たせて行う業務”＝「志事」に変えることができれば、より楽しく充実した会社生活を過ごせると思います。



国内大学との共同研究に参画し、多角的な視点で研究に取り組む

強度・構造研究部 高越さん (2016年度入社・高砂)

学生時代の専攻 工学部機械工学研究科水素エネルギーシステム専攻 / 転がり軸受鋼の水素侵入特性に関する研究

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

水素利用機器や原子力機器等の製品環境下での材料強度に関する研究・設計支援を行っています。研究成果が製品設計や仕様に直結する実感にやりがいと責任を感じます。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

事業とやりたいことがマッチしていると感じた際は、積極的に手を挙げて主体的に取り組むこと。これが研究の推進力となり、より良い研究成果と事業貢献に繋がると信じています。

社外と協働し外から総合研究所を見る機会は、キャリアにどのような変化を与えましたか？

当たり前かもしれませんが、「技術を軸とした議論の場において立場や役職は関係なく誰もが対等である」という気付きを得ました。確固たる技術力・専門性を持つことで、社内の上下関係に囚われることなく自信を持って業務に取り組めます。物怖じせず新規研究を提案し、得られた成果をもって事業貢献しつつ、自身の専門性がさらに深まるという好循環が生まれたと感じます。

海外拠点に駐在し、グローバルに最新技術を探索

オープンイノベーション推進室 丸山さん (2004年度入社・丸の内)

学生時代の専攻 工学部エネルギー科学科 / ニューラルネットワークを用いた原子力プラント挙動予測

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

グローバルリサーチ&イノベーションセンター・ボストンオフィスにて、新事業や既存事業のアップデートにつながる最新技術を探索。北米全域の学会やカンファレンスなどで有望な研究やスタートアップを見つけ、総合研究所や事業部と繋ぎ、協業をファシリテートします。カーボンニュートラルにつながる技術や原子力、製造技術など幅広く見えています。

海外でのキャリアにはいつごろから興味を持ち始めましたか？

入社時からです。次の世代により良い環境を残すためには、当社技術を世界に展開することが最も貢献できる方法だと思いました。世界を知り、学ぶことで、より大きな視点から当社の海外事業に貢献できるようになりたいと考えて米国留学。留学後原子力セグメントからST部門に移り、より広い分野で世界と当社をつなぐ業務に携わっています。





シドニー大学に留学し、海外との共同研究を積極的に推進

伝熱研究部 四方さん (2013年入社・長崎)

学生時代の専攻 工学系研究科機械工学専攻 / SOFC 燃料極における Ni 焼結過程予測に向けた三次元モンテカルロ解析

海外との共同研究によって得られたものが、現在の研究にどう活かしているかを教えてください。
当時、豪州での水素製造プロジェクトを支援する計画があり、シドニー大学に留学しました。豪州は水素やアンモニアの供給地点としても注目されていて、政府・大学・民間企業のコネクションが強い特徴があります。異文化の組織と共同で事業検討し、我々の検討結果でどう議論を進めるかという点を実体験として学べたことが、その後の仕事に活かしています。

あなたにとって、総合研究所とはどんな組織ですか？

やる気次第で色々なことに挑戦できます。すぐに役に立たないと思えることでも頭ごなしに否定された経験はほとんどありません。部署の垣根を越えたコミュニケーションも活発で、様々な技術を組み合わせて次のビジネスの種を作るチャンスも多いと思います。

事業部から総合研究所へ。設計と研究の両軸を経験

制御システム研究部 武田さん (2008年度入社・神戸)

学生時代の専攻 工学研究科 電気電子情報工学専攻 / 空間知を活用した自律ロボットの研究

現在のお仕事はどのようなお仕事ですか？

研究室のチーム統括をしています。室長（一般企業や他事業部で言う課長）の補佐として管理業務を行う傍ら、通信やネットワークのセキュリティに関する研究を立案・実施、各事業部からの支援依頼に対応しています。

キャリアを選ぶ上で大切にしてきたことを教えてください。

入社してから一貫して軸としているのは、『自分の仕事が誰かの役に立っているかどうか』です。

総合研究所に興味を持っている学生さんへメッセージをお願いします！

多様な製品に携わる機会を得られることが、総合研究所の一番の面白さであり、やりがいです。就職活動で「何のために自分が働くのか？」という問いに、5年後、10年後、15年後の自分でも同じ答えを返すだろうというぶれない軸を探すことは、今後の皆さんがVUCAの時代を元気に楽しく生きていくための指標になると思います。

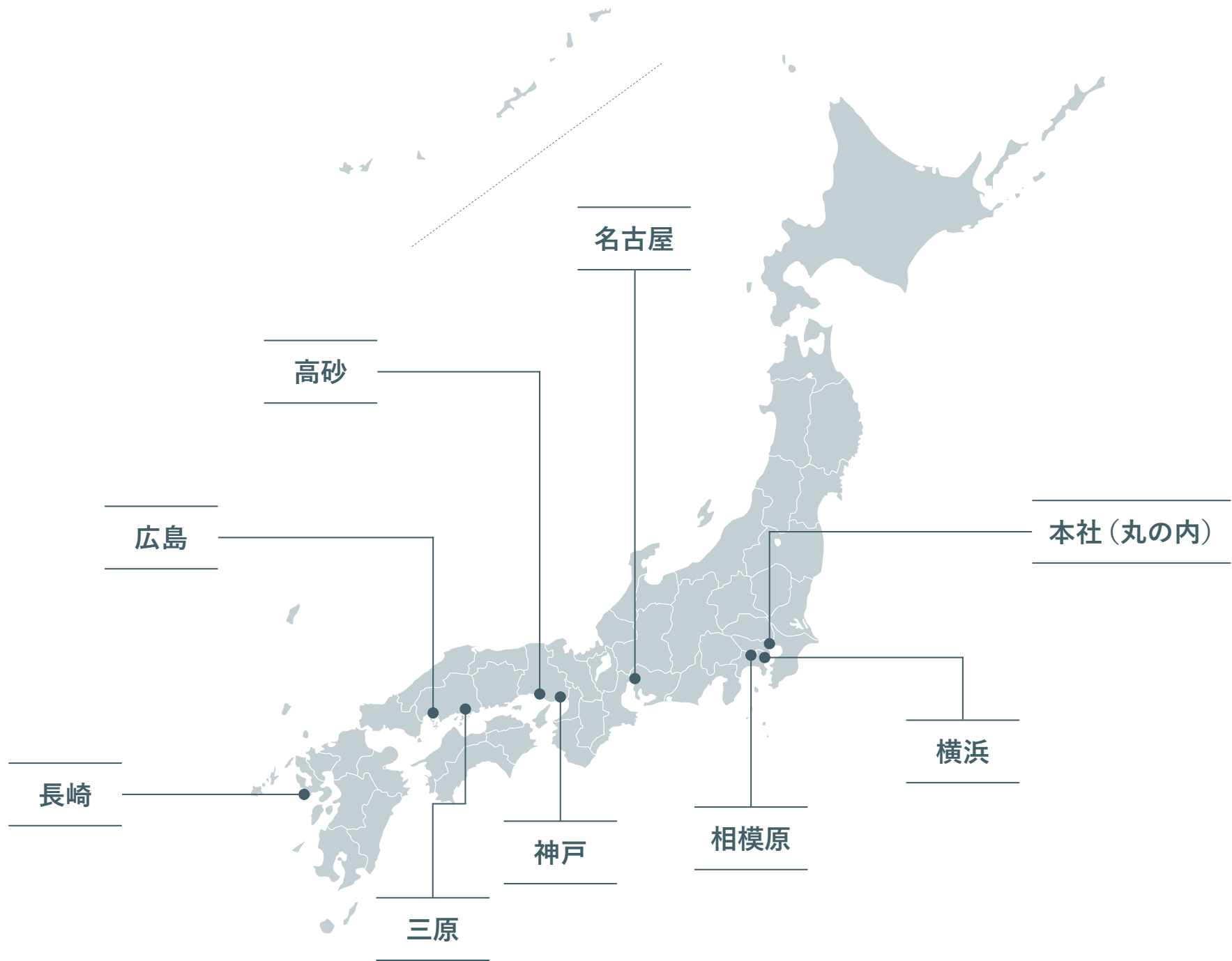


拠点紹介

組織および所在地

	長崎	広島	三原	高砂	神戸	名古屋	相模原	横浜	丸の内
オープンイノベーション推進室								○	●
ファクトリーイノベーションセンター	●	○		●	●	●	○		
エナジー研究推進部	●	○		●					
エコシステム研究推進部								●	
原子力研究推進部				●	○				
知能化機械研究推進部	○	○	○	●	●	○	●		
特殊システム研究推進部	○			○	●	●			
化学研究部	●			●				○	
強度・構造研究部	●			●		●			
振動研究部	●			●		●	●		
機械研究部	●			●		●			
流体研究部	●			●		●			
燃焼研究部	●			●			●		
伝熱研究部	●			●	○	●			
パワーエレクトロニクス研究部	○					●		●	
電子・物理研究部	○			●		●			
制御システム研究部	●	○		●	●	●		○	
業務部	●	○		●	●	●	○	●	

駐在（研究室）：● 地区分駐：○ 2025年4月現在



編集後記

「総合研究所」と聞くと、みなさんはどのようなイメージを持たれるでしょうか？

私たちが採用活動を通じていただく声の中には、「研究施設の中で製品から遠い場所で研究に没頭する部署」や「シンクタンクのように、政治経済も含めたあらゆる研究や提言を行う部署」といった印象が多く見受けられます。また、「ものづくりの企業に入っても製品に関われない」「相応の専門性を持っていなければ活躍できない」「敷居が高そう」「堅苦しそう」といった印象を持たれることが少なくありません。もちろん、これらの声にも一理あることは理解しているつもりです。

しかし、総合研究所は多様な特徴を持つ組織であり、多彩な個性を持つ社員が在籍しています。ほんの一部のイメージが先行し、それがあたかも総合研究所全体を表すかのように広まっている現状に、私たちは危機感を抱いていました。このパンフレットは、そうした採用担当者としての危機感、そして、総合研究所の魅力を正しく伝えたいという私たちの強い思いから制作しました。

ぜひ、ここに掲載した16名の社員の多様なキャリアや仕事に対する情熱に目を通してみてください。みなさんがこれまで大切にしてきた価値観や、これから描く未来の姿と重ね合わせることで、新たな発見があるかもしれません。その上で、みなさんの夢をかなえる場所の一つとして、総合研究所が選択肢の一つとして選ばれたなら幸いです。

みなさんとの出会いを心より楽しみにしております。

採用担当一同



会社概要

社名	三菱重工業株式会社	受注高(連結)	70,712 億円 (2024年4月1日～2025年3月31日)	支社	8
創立	1884年(明治17年) 7月7日	売上収益(連結)	50,271 億円 (2024年4月1日～2025年3月31日)	海外事務所	3
設立	1950年(昭和25年) 1月11日	研究所	1	社員数	連結 77,274 名 単独 22,347 名 (2025年3月31日時点)
資本金	2,656 億円 (2025年3月31日現在)	事業所・工場	12	三菱重工グループ会社数	国内 64 社 海外 192 社 (2025年3月31日時点)

組織図

